

## 「日本藝術院会員誕生」

事務所代表 佐々木 里加

第72回女流画家協会展におきましてはお蔭様で好評のうちに会期を終える事が出来ました。この場を借りて御礼申し上げます。

いつにも増して力作が揃い、壮観であったとの数々のご感想を戴き、創立から72年を経て更に女性の本領が発揮されつつある感を強くしております。

会期中に行われた各委員作品解説、ワークショップ、出品者作品講評会も盛況で、各委員作品解説の催しは今回が初めてでしたが、連日そのイベントだけでも百名を越す観覧客の方々が各委員の解説に興味深く立って移動しながら聴いて下さるといって大変有難い結果となりました。

ワークショップも毎回大好評で、この企画への無料参加をきっかけに出品される方々も増えています。

出品者作品講評会では、出品者の方々が非常に熱心にご自身のお作品について語られ、また委員に改善点などを質問され、互いに感性を磨き切磋琢磨でき、意思の疎通もはかれる良い機会となっています。

女性同士でないと理解しにくい事、女性同士であれば説明は要らない事など多くありますが、当会の良い処のひとつは



女流画家協会 委員集合写真 2018年撮影

そこにあり、ご家族でも中々話せないような事を、作品も含め、また作品にも深く関わってくる生活上のお悩み等まで話し合える場となっています。時には家族以上の繋がりも出来ると言っても良いでしょう。

今期はまた、女流画家協会 馬越陽子委員が当会創立初の日本藝術院会員に推挙されるという、女流画家協会の歴史上、ひいては日本の文化芸術に於ける女性の地位向上という意味で大変名誉な事がございました。

それも皆さまに当会そして当会所属の女性作家をお引き立てお支え頂いての結果と、重ね重ね御礼申し上げます。

今後とも益々輝く女流画家協会をどうぞ宜しく願い申し上げます。



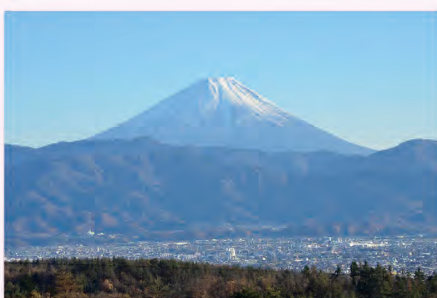
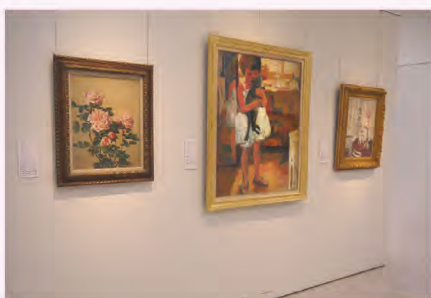
## 第73回女流画家協会展 授賞式 5月29日(水)午後4時30分～ 大村智先生ご出席の予定です

### “ 荊崎大村美術館 ” にぜひお立ち寄り下さい

「山梨県荊崎市にある、“荊崎大村美術館”は女流画家協会にご提賞戴いているノーベル賞受賞者・大村智博士が館長を務める美術館です。当会創立作家である三岸節子を始め、桜井悦、出品歴のあるラギーザ・玉他、逸品揃いです。富士山を見渡す丘陵地帯にあり、天然温泉、御蕎麦屋さんも併設しております。気候のよいこの季節、ぜひお立ち寄り下さい。」



荊崎大村美術館



荊崎市丘陵地帯から見た富士山

住所：山梨県荊崎市神山町鍋山 1830-1

電話：0551-23-7775

最寄り駅：

JR 中央本線「荊崎駅」下車、  
タクシーまたは市民バス約 10 分

この度日本芸術院会員就任の御推挙に感謝と共に重い責任を感じております。

これまで私は日本では勿論、パリ、ニューヨークそして北京と個展を重ねて参りましたが日本人として地に足をつけてしっかり貢献しなければとの想いを新たにしております。

本年で女流画家協会は創立 73 回展を迎え、草創から今日に至る女性芸術家としてアートを愛し、その夢を実現すべく、力を結集して、会を支え、作品を出品し続けた皆様の賜物と感じています。

私は約半世紀近く委員として女流画家協会に作品を出品して参りました。9 年前の都美術館改装に伴い上野の森美術館での二週間に渡る展覧会開催には倉庫での変則的審査などこの会の運営にかかわる労苦を事務局として実感いたしました。先輩で、今もご健在の入江一子先生、又今は亡き丸木スマ・仲田好江・桜井浜江・神戸文子等の先生方の御顔が浮かびます。皆あたたかく包容力のある方々でした。

もとより現代ではジェンダーを超えた自由闊達な活動が受け入れられ女性への門戸は拡がりました。一方家庭を守りつつの制作の苦労は変わらず存在し、女性同士の支え合いも制作の力となるのは当然の事です。

アートの制作は最も純粋で美しい行為といえます。人々に力を与え自身も力を得ると信じています。女流画家協会に出品し、またそれを支える人々にも感謝し「和して動ぜず」の精神でそれぞれの個性を發揮されることを願っています。



第 72 回女流画家協会展出品  
「人間の大河—不死鳥を仰ぐ—」  
130F



「揺れる風」1998 年  
100S 油彩・キャンバス

## 【遠藤彰子 出演情報】

株式会社ワコールのイメージ動画出演：

以下の web サイトにて動画が視聴できます。

<https://wacoal.gallery.video/dodai>

## 遠藤彰子 / NHK・E テレ日曜美術館で特集

昨年 10 月 14 日「巨大な絵画にこめたもの～画家・遠藤彰子の世界」として放映。  
又、今年 2 月 10 日に再放送されました。

日曜美術館をご観くださり誠にありがとうございます。放映後、女流画家協会の皆さまから様々な感想や励ましのお手紙をいただき、とても嬉しく今後の創作活動への励みになりました。

撮影は、昨年春から秋ごろまでの約半年間行われました。普段と変わらない自然な姿を撮りたいとのことで、事前に細かい打ち合わせなどは行わずに、淡々と制作風景の撮影は進みました。構成台本もなく、事前に想定問答も用意されていなかったもので、モタモタとしたありのままの感じが出ていたのではないかと思います。

紹介された作品は、1000 号の大作だけでしたが、同時期に小品やカットなどの締め切りもあり、撮影に合わせて大作を描き上げていくのは結構大変でした。終わってからは「ああ言えばよかったな…」と反省しきりです。

女流画家協会の出品者は、素晴らしい作家がたくさんいます。これからも同じ仲間として助け合い、切磋琢磨してお互いに高め合っていけたらと思っております。この度はありがとうございました。

## 「無 題」

## 高橋 和

昔、ムカシ、50 号と 30 号の絵と一緒に私は盛岡駅から普通夜行列車に飛乗った。女流展搬入の 1 日前だった。上野駅迄は確か 10 数時間は経った頃だった。今では考えられない事だし、こんなドジは居ないと思う。

が、今でも、遠くから絵を運ぶ為には、その時々状況等もあったりし、大変だと思う。唯、多岐に渡る分野から、そして様々な表現の絵も多い会場では、多くの場からの方々の作品（絵）に出逢えたらと考える。

おわりに蛇足。何時の間にか時は去って行ったが、今、ふと頭に浮かんできたのは、桂ユキ子の「異邦人」と言う絵だった。



第 72 回女流画家協会展出品  
「風跡 2018-1」 100S

# 受賞者の声 2018年72回展

## 《上野の森美術館賞》

後藤 静子 (会員)



この度は立派な賞を賜り心より感謝申し上げます。昨年までは以前に住んでおりましたシンガポールの激しい空と雲を描いて参りましたが今年は日本の静かな光景を心の奥に灯る明かりの様に表現致しました。自分の気持ちに素直にと思いつつ制作いたしました。今後も心象風景を雲に託して表現したいと思っています。宜しくお願い申し上げます。



「寂光」  
130F



「となりの果実」  
130F



## 《大村文子記念賞》

野村 紀子 (新会員)

この度の受賞、そして会員へのご推挙をいただき大変恐縮しております。

自分だけで成せることは少なく、常にあらゆる方から刺激を受け、助けていただき、描いてまいりました。絵に関しましては、ふと目に留まったものを少しずつ集め、それらを構成してつくっております。今後も、日ごろから絵のことを考えながら生活していきたいと思っております。



「祈りのかたち」  
120 変



## 《葦崎大村美術館賞》

柴野 純子 (会員)

地球の温暖化によって後戻り出来ない今、世界は終末に向かっていているように思える。なすすべのない人間の無力さを感じて悲しい。祈る事しかできない私は祈りをテーマに、生と死のうつろいゆく刻々を描き続けている。この度、人類に貢献しておられる大村智先生の賞を戴けたことは、何よりも嬉しく、制作の道しるべにさせて戴きたいと思っている。



「晒の静物」  
130F

## 《マツダ B 賞》

狩野 三世子 (会友)

この度は受賞させて頂きありがとうございました。驚き、嬉しさと同時に身の引き締まる思いです。絵を描きたいという衝動に駆られ絵画教室に通い始めたのが20年前。憧れの女流画家協会展初出品は63回展、今回が10回目となります。ここまで継続できたことに感謝し、これを励みに1日1日を大切に描き続けていきたいと願うばかりです。



「水の庭ーそれから…」  
130F

## 《水野 恭子賞》

辻井 久子 (会員)

私の心の所在を「晒(すみか)と名付けています。すみかとは自分の住居と同じ、心の拠り所です。その中に観察したもの、抽象的なもの、自然の要素、部分などを重層的になるように構成しつつ試行錯誤をくりかえし模索し続けています。この度は水野恭子賞をありがとうございました。お励ましとこれから先の力をいただきました。



「希望 B」  
130F



## 《トークロ・東美賞》

長山 悦子 (会友)

独創的な表現で、明るくいのちの平和を願い、絵を制作したい。写すのでなく円形を使い抽象的に様々な面色線がハーモニーを生み出す。そんな作品創りに挑み模索を続けました。幸いワークショップでの向き合いに心が沸き、平面で立体でと、悪戦苦闘を繰り返し、インパクトの強い、ドキッ！未熟ですが、何とか到達しつつ、個々の希望的躍進を願い、これからも制作に取り組みます。



「Tea Break」  
130F



## 《前田さなみ賞》

小堀 恵子 (会員)

私の描く世界の表現に合っている油彩画のマチエールが好きです。人物はリアリティを持ちながらも、どこか不思議な存在に配置される様にクラシカルな要素も入れています。「もの」に宿る意味・象徴のイコノロジーの中でイメージを浮遊させ、具現化できたら楽しいだろうなアと思って描いております。見る方々が、私の絵から、様々な物語が広がって下さったら望外の幸せです。

## 《リキテックス賞》

香川ヒサ (一般)

女流展は初出品、その上思いがけず賞を頂き驚き、心より感謝しています。今までいろいろなモチーフ、技法で描いて来ましたが、現在は身の回りの物(花、ケーキetc)をモチーフにリアルに近づけようと描いています。光が映し出す対象を表情豊かに描けたらと思っています。そのためには、モチーフが一つの課題ですが、モチーフを探求しながら、日記を綴るような気持ちで日々絵を描く時間を大切にしたいと思っています。



「sweets story」  
100S

## 《東京新聞賞》

瀬谷 貴久枝 (会員)



子ども達の遊んでいる光景・光と影をテーマに描いています。特に遊具のジャングルグロブの形、作りだす影が興味深く心を引かれています。子ども達の生きる力・楽しさと共に現実のようでどこか違う世界も表現していきたいと制作しています。この度は受賞させていただきありがとうございます。今後更に精進していきたいと思っております。



「Play I」  
130F



「M氏のテリトリー I」  
130F



## 《マルオカ賞》

相原 悦子 (新会員)

私は自宅でバラの花や果物、野菜などを育てています。植物の変化にとんだ花や葉の形、色、そしてその生命力の強さに感動しながら、人物と植物と水をテーマに描いてきました。今回、主人と栽培に苦勞した白菜を描いた作品が受賞及び会員推挙となりました。それは大変嬉しいと同時に、新たな一歩を進むよう励ましを頂いたと思っております。

## 制作の場を楽しむために

研究会は、2年毎に責任者が交代し今年から中村智恵美、八木芳子、岡崎好江（会員）が担当しております。ご存知の方も多い研究会のご案内をさせていただきます。8月と12月の2回を除き、月1回年間10回、東京都美術館スタジオで開催されています。毎回裸婦クロッキー後、デッサンを主としたドローイングを制作しています。また希望者には、年初に発表される月毎の当会委員による作品講評がスタジオ内コーナーで同時に行われ、大変ご好評頂いております。作品講評は、普段制作中の作品について作品写真等資料をお持ちいただき月担当委員による作品相談会です。女性であれば誰でも入会出来毎回30名程



3月出席者

の参加者で和やかに行われております。茶話会や納涼会、忘年会等も開催しております。どうかこれからも多くの参加を期待しております。（中村智恵美）

## 72回展 (2018) ワークショップ

担当：吉江麗子、松本恵美  
補佐：生駒幸子、高橋恭子

6月1日（金）、都美術館2Fスタジオにて行われました。31名の参加で、テーマはボックスアート（小さな箱に大きな宇宙を）でそれぞれ思いの持参した箱を使用して、自由な発想で箱を分解したり、立体にしたりと独創的な作品になりました。28名の方がアンケートに回答していただき、2回以上の参加の方が過半数で、とても良かった24名、良かった4名で今後は是非参加したい、時間があれば参加したい方が28名全員となりました。年代では若い方は19歳～70代以上と年齢の幅も広く、今後希望するテーマとしても、色々なご意見を

頂き、平面と立体のコラボ、色々な素材を使いたい、絵の具だけのマチエール造り、半立体、シルクスクリーン、等の希望があり、手を動かして気付かされた事が沢山あったとの意見もありました。又、吉江委員の「アートは明日の自分を探す旅」という言葉に感動しました等の感想を頂きました。又、マツダ油絵具（株）様には、今年もアクリル絵の具をご提供いただき、参加者へのアドバイス、質問にもお答えいただきお礼申し上げます。（松本）



ワークショップ会場風景

## 73回展ワークショップ(予告)

都美館2Fスタジオ 参加費無料 6月1日(土)1時30分～約2時間制作  
テーマ「身近な野菜を自分らしく表現する」 定員35名 担当 吉江、松本



第72回女流画家協会展出品  
北 久美子  
「風の景色」100P



第72回女流画家協会展出品  
野中 伊久枝  
「遊悠II」120F



第60回記念女流画家協会展出品  
川端 静子  
「新しい世と古い世」80F

追悼  
心よりお悔やみ申し上げます  
川端 静子 委員(98歳)  
二〇一九年一月二十日逝去  
野中 伊久枝 委員(77歳)  
二〇一九年三月十九日逝去  
北久美子 委員(73歳)  
二〇一九年五月六日逝去

編集後記 Vol.6より会報係を担当し、今年は2年目となりました。原稿をお寄せ下さった方々、ご協力下さった方々には、心よりお礼申し上げます。カラフルで楽しく目を通していただけるように、写真を多用して、1947年の第1回展より今年73回展を迎えた女流画家協会が、少しでも皆様にご理解していただけるようにと編集いたしました。どうも有難うございました。（会報係一同）

## 女流画家協会 会報 vol.7-2019.5/29

発行日：2019年5月29日  
発行：女流画家協会  
編集委員：松本恵美、平川きみ子、  
児玉沙矢華

## 女流画家協会 事務所

代表 佐々木 里加  
〒171-0022 東京都豊島区南池袋3-7-8-1901  
TEL&FAX：03-3961-1100  
<http://www.joryugakakyokai.com>